平成27年度　各種調査結果等を活用した学力保障の取組事例

事務所名	学校名	盛岡市立本宮小学校	ＴＥＬ	019-636-0249

授業改善を柱とした学力保障の取組

【今年度の目標】

・平均正答率県比＋１０％

・正答率６０％未満児童全体の１割未満

・学調質問紙調査（小５～６）における「学校の授業がどのくらい分かるか（国・算）」について、（ほとんどわからない）・（分からないことが多い）と回答した児童の割合の前年度比減少

【組織的な対応を図る上で工夫した点】

・校内学力向上対策委員会を組織し、学力向上に関わる役割分担を明確にした。

・学力向上の取組を校内研究と連動させた。

・取組の計画・進捗状況・成果等を運営委員会や職員会議で定期的に共通理解した。

【具体的な取組】

Ｐｌａｎ（計画）

本校の児童の実態に応じた取組計画を策定する。

1　授業改善

（1）学習の定着の状況に応じた指導

（2）「授業振り返りの視点」の重点によるノート指導

（3）諸調査の結果を活用した指導

2　家庭学習指導

3　個に応じた指導

Ｄｏ（実行）

・授業改善の視点に基づく授業実践を推進する。

・学年の児童の実態に応じた家庭学習の取組を行う。

・少人数・個別指導を通して個に応じた指導を行う。（学年・担任外）

・年間指導計画に基づき過去の調査問題に取り組ませる。

学力保障

PDCA サイクル

Ｃｈｅｃｋ（評価）

・調査結果を分析し自校の児童の実態を把握する。

・調査結果における正答率の低い問題を洗い出し、教科書に付箋を貼る。

・学力保障の取組計画に基づき、各学年・学級の取組進捗状況を確認する。

・運営委員会で学力保障の取組を確認する。

Ａｃｔｉｏｎ（改善）

・次年度の学力調査までの取組計画の見直しと再確認をする。

・今後の授業改善の視点・指導の重点を捉える。

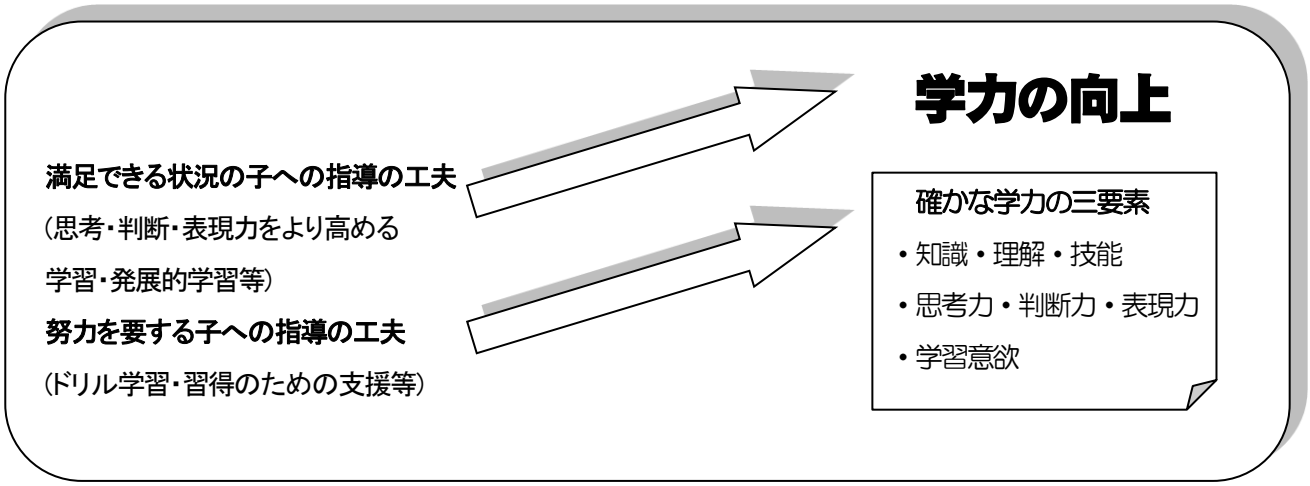
・授業改善の視点・指導の重点を明確にして授業実践をする。

・補充指導を実施する。

1　授業改善

(1)　学習の定着の状況に応じた指導

本校児童の実態は、比較的満足できる状況の子が多いものの、支援を要する子も多い。そこで、日々の授業において児童の定着の状況に応じた指導・支援を行うことが学力保障につながると考えた。



校内研究においても定着の状況に応じた授業を研究するために、**学習指導案には努力を要する状況の子だけではなく、満足できる状況の子にもどのような指導の手立てを行うか明記することとした。**

【例】

ア　４年　国語　組み立てを考えて書こう　「自分の考えをつたえるには」

①〈満足できる状況の子への手立て〉

自分の考えのもととなる理由や事例を複数挙げるなど書き方を工夫させる。

②〈努力を要する子への手立て〉

理由が思い浮かばない子には板書された友達の発表を参考にするよう助言したり、具体的な体験を想起させたりするなど個別に支援する。

イ　３年　算数「かけ算のしかたを考えよう」

①〈満足できる状況の子への手立て〉

・３位数×１位数の計算に挑戦する。

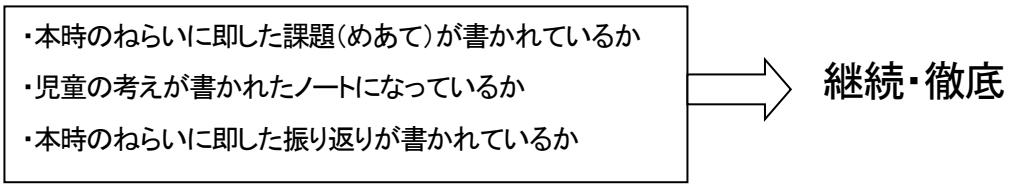
②〈努力を要する児童への指導の手立て〉

・○図や模擬貨幣を使ったり、数操作を一緒にしたりしながら、位ごとに計算すると良いことに気づかせる。

毎日の授業の中で、満足できる状況の子には知的好奇心を高め、挑戦できる課題を与えたり、解決方法を具体的に記述させたりすること、努力を要する状況の子には自分の力で問題を解決したり、学び合いを通して理解したりできるようにすることを主な手立てとして授業改善に取り組んだ。

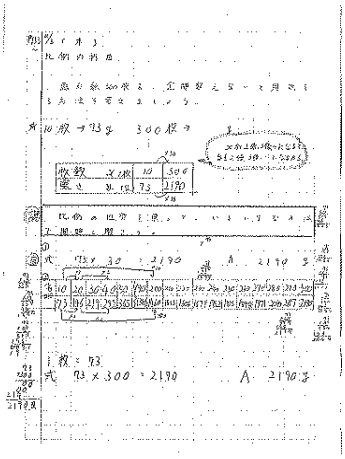
(2)「授業振り返りの視点」の重点によるノート指導

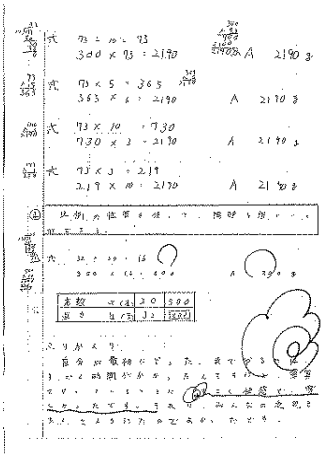
「盛岡市学力向上推進事業」の「授業振り返りの視点」に基づくノート指導を徹底する。



今年度は校内研究の重点の一つを「学び合いを生かして表現する学習活動の工夫」として、振り返り活動も研究の柱とした。どの学年でも振り返り活動を継続して行うことにより多くの子が分かったこと・自分の学びの反省・友達から学んだこと・次のめあて等、複数の観点から記述できるようになった。特に高学年では、「わからなかったこと」を基に、どのように理解するに至ったかを記述できる子も増え、その交流から学習内容を確かめたり深めたりする姿が見られた。また、振り返りを次時の導入に生かすことができることも分かった。振り返り活動は、表現力の向上に有効な活動である。

１１月には各学年ノート交流会を行い、教師間・児童間の交流を通してより良いノートの在り方を探った。教師も児童も、良いノートはどのようなノートか・振り返りでどのようなことを記述できれば良いか共通理解することができた。





(3) 諸調査の結果を活用した指導

ア 全校体制での各種調査問題の把握・正答率の低い問題を教科書に付箋

夏休みの校内研究会において、全職員が全国学調を解き、感想を交流した。次にグループに分かれて NRT と昨年度の県学調の正答率が低い問題を洗い出し、教科書に付箋を付ける作業を行った。今求められている力を共通理解するとともに、教科書に付箋が付いていることで、正答率の低い問題や単元を把握し、毎日の授業における意図的な指導につなげることができた。

イ 学習状況調査に向けて

４月の全国学力・学習状況調査、10 月の岩手県学習定着度状況調査に向けて、過去の問題に取り組んだ。子どもたちは何度かの取組を通して、難易度の高い問題や自分の考えを記述する問題に慣れ、無答率を低くすることにつなげることができた。日々の授業で文章を記述させる際は、最後の行まで書く・一段落目に結論、二段落目に理由を書かせるといった条件作文を書かせるようにした。

2　家庭学習指導

（1）学年の実態に応じた学習の質(内容面)と量(時間)の両面に渡る系統的な指導の推進

各学年では、以下のような家庭学習に取り組んだ。

1年　授業と連動した内容のプリントを出す　家庭での丸つけ・直しの協力・家庭での週末日記・読書

2年　授業と連動したプリントを出す　20分になる宿題　　土・日の親子読書・日記

3年　毎日40分以上　　音読(土日は読書)　プリント・一人勉強(計算ドリル・漢字練習中心に1ページ以上)

4年　毎日40分以上　　音読(土日は読書)　プリント・一人勉強(計算ドリル・漢字練習中心に2ページ以上)

5年　毎日50分(2学期から60分)以上　　音読(土日は読書)毎週火・木・金は国語、月・水・金は算数の学習プリント・一人勉強(日記も含む)・　週末は宿題としての読書

6年　毎日60分(2学期から70分)以上　　音読(土日は読書)　宿題のプリント・スキル・ドリル・一人勉強(日記を含む)

（2）学びフェストにおける重点期間の設定と自己評価活動

年に３回（６月・１１月・２月）、家庭学習について１週間重点的に振り返り活動を行っている。内容は、テレビを消して学年×１０分（２学期からは＋１０分）の家庭学習ができたか・一週間に１回の親子読書ができたかを自己評価する。６月と１１月は市の取組「家庭学習・読書強化作戦」と抱き合わせての振り返りを行っている。家庭学習はほとんどの子が達成できている。親子読書はなかなか難しいが、半数以上の家庭で取り組んでおり、年々達成率が向上している。

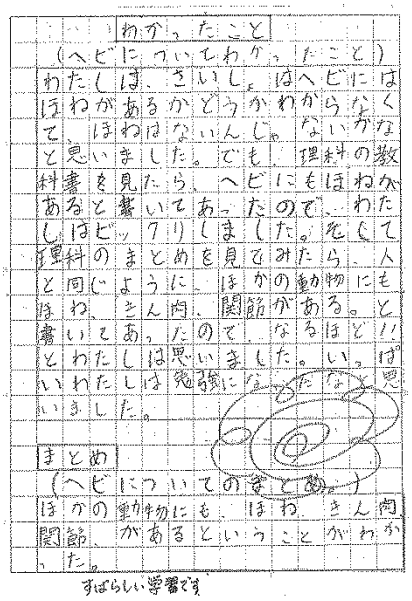
（3）授業における自己評価活動（授業作文）

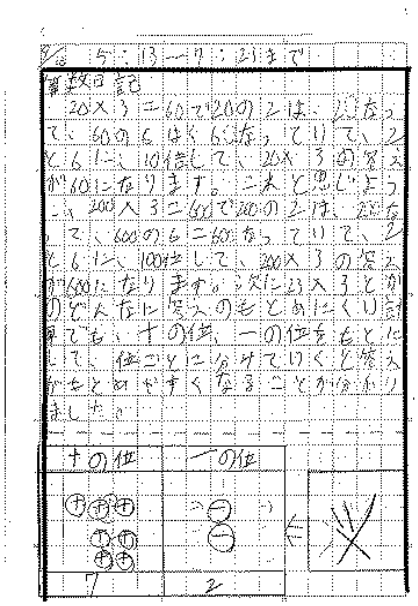
家庭学習における振り返り・授業作文に全校で取組んだ。授業における振り返りは、時間が足りなくてできないことがあるが、授業作文はそれを補うことができる。時間のしばりがないため、詳しく振り返りを記述することができる。

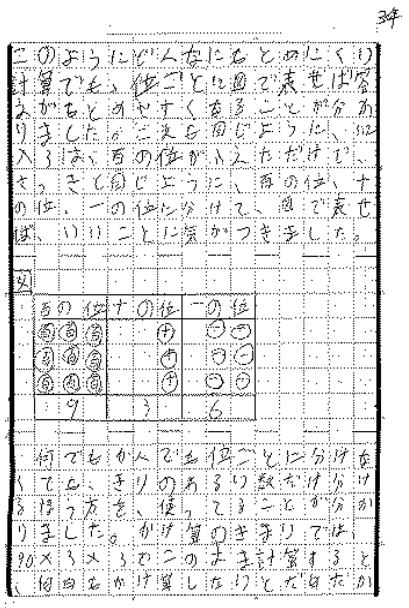
授業の感想文を書く。
「授業のあらすじ」「分かったこと」
「できたこと」「思ったこと」
「授業の反省」「友だちの学びについて
「次時のめあて」等を書かせる。

[効果]

・学習の振り返り（授業における振り返りよりも時間をとれる＝詳しく記述できる）
・授業で振り返りの時間がとれなかった際に授業作文を家庭学習で取り組む～授業を補う
・児童に好評…何を書けばいいか悩まない　　・保護者に好評…学校の様子が分かる
・授業の導入で紹介～前時想起・学習意欲の喚起　　・思考・判断・表現力を高める・メタ認知
・授業の評価（教師にとって・児童にとって）　　・授業の質を問うことが可能
・子どもの授業理解の把握　・次時へのつながり　　・導入での作文の紹介…授業への意欲を高める







３ 個に応じた指導

（1）児童の実態の応じた課外学習活動の実施

各学年では、特に努力を要する児童の基礎・基本を身に付けるために、休み時間・放課後や長期休業期間中に個別指導を実施している。

努力を要する児童の個別指導のために担任外に依頼したいことの希望を募った。それを生かし以下の指導を実施した。

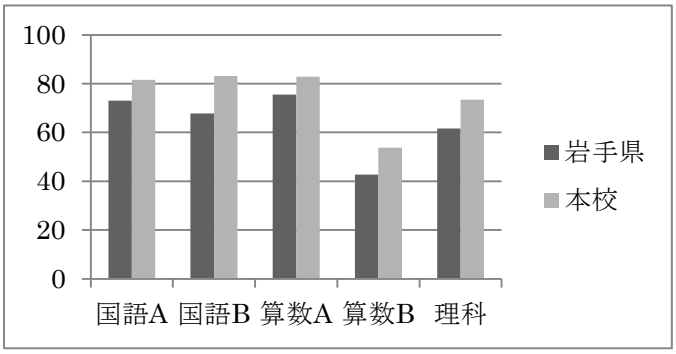
・朝学習の時間に外国人の子（２年・４年）の日本語指導（主幹・教務）
・委員会の時間に４年生の努力を要する児童の算数科の指導（主幹）
・５年生の少人数指導時間の増加　各学級週３時間→５時間（主幹・教務）

（2）学習意欲の喚起・持続を図る取組

全学年、休み明けテスト（漢字大会・計算大会等）を実施した。どの学年も、合格ラインを設定し、合格するまで繰り返し取り組ませた。

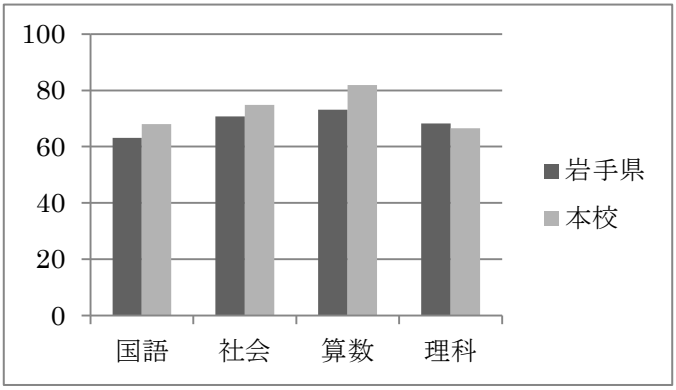
４ 成果

（1）平成27年度全国学力・学習状況調査の結果より



・全教科、県平均正答率を大きく上回った。
国語 A～+8.5　国語 B～+15.3　算数 A～+7.3
算数 B～+11　理科～+11.8
・国語 A・国語 B・算数 A・理科において全領域・問題形式・小問において県の平均正答率を上回った。
・無答率が大部分の設問において 0%であった。
・児童質問紙においては、ほとんど全ての設問において県の正答より望ましい回答が見られる。

（2）平成27年度岩手県学習定着度状況調査の結果より



・国語・社会・算数において県平均正答率を上回った。
・全領域で県平均を上回った。特に少人数指導や個別指導等に力を入れた算数においては+8.8 と大きく上回った。
・児童質問紙においては、「はじめに授業の目標(めあて・ねらい)を確認していると思いますか」「普段の授業で最後に学習内容を振り返る活動をよく行ってると思いますか」の項目で県平均より望ましい回答が見られた。

・少人数指導を生かした日々の授業・個別指導を通して、県正答率よりも正答率の低い子が大きく減少した。

（3）取組全体をとおして

ア　学習の定着の状況に応じた指導・支援を具体的に行うことにより、学力の向上につなげることができた。
イ　学習課題・自分の考え・振り返りのあるノート作りを全校で継続・徹底して取り組んだことで、毎日の授業の教材研究や板書計画の充実、そして授業改善につなげることができた。
ウ　授業及び家庭で振り返り活動を行うことにより、多くの子が自分の考えをしっかりと表現する力を高めることができた。
エ　家庭学習や個に応じた指導等の工夫を行うことにより、特に努力を要する子の学力の保障につなげることができた。